

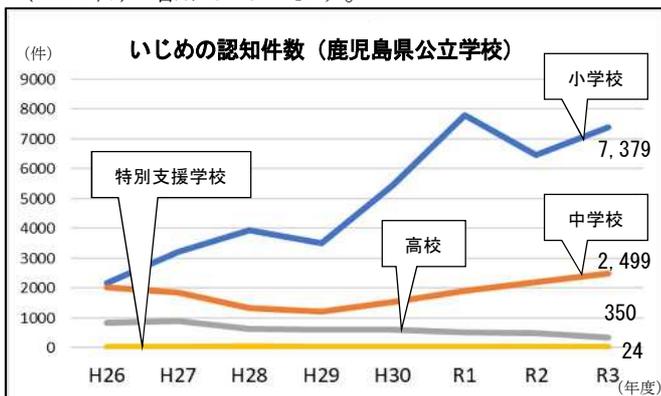
鹿児島県公立学校における令和3年度児童生徒のいじめ・不登校の状況

高校教育課・義務教育課

鹿児島県公立学校における令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況は以下のとおりです。

いじめの状況

下のグラフは、いじめの認知件数の推移を示しており、令和3年度の本県の公立学校における認知件数の合計は、10,252件であり、昨年度より1,081件(11.8%)増加しています。



県教委では、各学校に対して、いじめほどの学校でも、どの子にも起こり得るとして、冷やかしやからかいなどの軽微と思われることでも「いじめの芽・兆候」として積極的に把握し、「まだ気付いていないいじめがある」「1件でも多く発見し、それらを解消する」という姿勢で臨むように指導をしています。

令和3年度は、積極的な認知や「いじめ防止対策推進法」の理解が広がったこと、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、様々な活動が徐々に再開されたことによる接触機会の増加等から、いじめの認知件数が増加したと考えられます。

〈いじめの100人当たりの認知件数〉(公私立学校)

	H30	R1	R2	R3
鹿児島県	4.0	5.4	4.8	5.4
全国平均	4.1	4.7	4.0	4.8

上の表を見ると、本県の児童生徒100人あたりのいじめの認知件数は、令和元年度から全国平均を上回っていますが、文部科学省は、いじめの認知件数が多いことは、教職員の目が行き届いている証しであると肯定的に評価しています。

また、いじめ発見のきっかけについては、次の3つが上位を占めています。

〈いじめ発見のきっかけ〉 (鹿児島県公立学校)

1位	アンケート調査等	(58%)
2位	本人からの訴え	(17%)
3位	学級担任が発見	(12%)

アンケート調査等が、いじめ発見の6割近くを占めることから、現在、各学校へは年間5回以上のアンケート実施を呼びかけています。

不登校の状況

令和3年度の不登校児童生徒数は、前年度と比べて小学校で238人、中学校で482人の増加、高校は21人の減少でした。

〈不登校児童生徒数〉

(鹿児島県公立学校)

	H29	H30	R1	R2	R3
小学校	294	427	466	595	833
中学校	1,369	1,496	1,511	1,671	2,153
高校	718	756	726	723	702
合計	2,381	2,679	2,703	2,989	3,688

不登校の主な要因は以下のとおりです。

〈小学校〉

- 1位 無気力、不安 (41%)
- 2位 親子の関わり方 (15%)
- 3位 生活リズムの乱れ、あそび、非行 (14%)

〈中学校〉

- 1位 無気力、不安 (39%)
- 2位 いじめを除く友人関係 (19%)
- 3位 親子の関わり方 (8%)

〈高校〉

- 1位 無気力、不安 (34%)
- 2位 いじめを除く友人関係 (12%)
- 3位 入学、転編入学、進級時の不適応 (14%)

不登校の要因は、年々多様化かつ複雑化してきており、一概に捉えることは困難な状況ですが、児童生徒の休養の必要性を明示した「教育機会確保法」の趣旨の浸透や、新型コロナウイルス感染症の影響も含め、生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況にあったこと、学校生活において様々な制限がある中で登校する意欲が湧きにくい状況にあったこと等が全体的な増加の背景にあると考えられます。

引き続き、周囲の大人が子供たちのSOSを受け止め、組織的対応を行い、外部の関係機関等とも連携しながら対処していくことが重要です。

【関連資料等】

- ・ 県教委ホームページ (生徒指導関係)

